

令和6年12月18日14時00分  
近畿地方整備局

## 水運利用が広がる水都大阪を災害から守る防災の取組を学びましょう！ ～川の駅はちけんやの防災展示と舟運動画の放映を開始～

- ◆かつては「水の都」と呼ばれていた大阪。一時は衰退の一途をたどっていましたが、近年“水の都”を取り戻すべく、「水都大阪」として水辺の生活を活気ある賑やかな場へと再生するための様々な試みが展開されています。
- ◆川の駅はちけんやでは、「みんなで災害に備えよう展」を開催し、水都大阪の街や水運、暮らしを守ってきた施設や、これからも守り続けていくための新たな施設をパネル展示形式で紹介します。
- ◆また、阪急ターミナルビジョン（BIGMAN）では、淀川舟運の認知度向上を目的に、「150年の淀川改修と淀川舟運のこれから」の動画放映を行います。
- ◆災害時には住民一人ひとりが主体的な避難行動や防災行動をとっていただくことも重要です。これらの取組を通して、一人ひとりが日頃からできる災害への備えについて、みなさんで考えてみましょう。

### 1. 川の駅はちけんや「みんなで災害に備えよう展」

開催期間 令和6年12月23日（月）～令和7年2月9日（日）

午前10時～午後5時 ※12月29日（日）～1月3日（金）は休館

開催場所 川の駅はちけんや 地下1階

〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東1-2

[アクセス] 京阪電車 天満橋駅11番出口または17番出口から徒歩すぐ  
OsakaMetro 谷町線 天満橋駅2番出口から徒歩5分

入場料 無料

内容 みんなが知らないところで、大阪の街や人々の暮らしを災害から守り続けている施設の紹介や、一人ひとりが日頃からできる災害への備えを紹介するコーナーなど、防災意識を深めていただく企画展です。

### 2. 動画放映「150年の淀川改修と淀川舟運のこれから」

放映期間 令和6年12月23日（月）～令和7年1月19日（日）

放映場所 阪急ターミナルビジョン（BIGMAN）

<取扱い>

<配布場所>近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、海事関係業界プレス

<問合せ先>

#### ■「みんなで災害に備えよう展」について

近畿地方整備局河川部 河川計画課 課長 小杉 恵、課長補佐 村田 浩之  
電話：06-6945-6355

#### ■「150年の淀川改修と淀川舟運のこれから」について

近畿地方整備局淀川河川事務所 事業対策官 天野 敦史、流域治水課長 西 広樹  
電話：072-843-2861（代表）

みんなで

# 災害に備えよう展

～水都大阪の防災と減災、その取り組みと、みんなの防災～

みんなが知らないところで、大阪の街や人々の暮らしを災害から守り続けている施設の紹介や一人ひとりが日頃からできる災害への備えを紹介するコーナーなど、防災意識を深めていただく企画展です。

■日時 2024. **12.23** 月 ▶ 2025. **2.9** 日  
**10:00~17:00** 12.29 ▶ 1.3は休館

入場  
無料

■場所 **川の駅はちけんや B1F**

京阪電車/OsakaMetro谷町線天満橋駅下車17番出口より西へ約200m



動画で観る

①

## 水都大阪の防災を知る水上ツアー

10月13日開催の「水都大阪の防災を知る水上ツアー」を動画でご紹介。

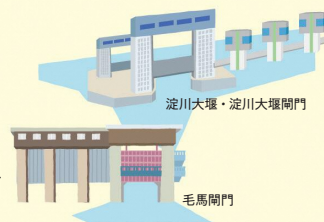


ミッション!! 大阪を災害から守れ

②

## 水都大阪の治水・防災施設の紹介

過去の災害から大阪の街や人々の暮らしを守ってきた治水・防災施設の紹介や、これからもずっと守り続けるための新たな施設なども紹介します。



みんな、どうしてる??

③

## みんなの防災と減災

一人ひとりが日頃からできる災害への備えについてわかりやすくお伝えします!  
どんな備えができるのか、みんなで考えてみよう。



みんなの防災  
必見です!!

④

## いよいよです♪ 大阪・関西万博

開催まで半年をきった、大阪・関西万博。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、最先端の技術やヒト、モノ、コトが大集結するその一端をお見せします。



川から陸から水辺から、手をふることはつながること

Hi ship! Project

かつて物資や人を運ぶ航路として利用されてきた「琵琶湖・淀川流域」。現在も、私たちの生活になくてはならない重要な役割を果たし、その恩恵を受ける人々は現在、約1,700万人といわれています。Hi ship! Project は、約1,700万人の人々と川との対話を通して水辺の「今」を伝えるプロジェクト。「手をふる (Hi ship!) 」というシンプルなコミュニケーションを通して、水辺の魅力や取り組みを発信し、川と人が織りなす物語を伝えていきます。

